

## 基本構想・基本計画（中間案）の修正概要（案）

## 基本構想（中間案）の修正概要

## 1 仙台の未来へ

この基本構想は、21 世紀半ばを展望して、私たちがめざす都市の姿を示し、それを市民と行政とが共有しながら、実現に向け共に取り組んでいくための指針となるものです。

今、仙台をとりまく時代環境は、大きな転換に向けた流れを加速しています。

経済、環境、資源、食料などをめぐる地球規模の課題はますます困難の度を強め、国内においては人口減少や少子高齢化が進み、地域経済や雇用、財政や社会保障制度の将来などに大きな影響を与えており、国と地方のあり方をはじめ、社会経済構造全体が急速な変革の過程にあります。

こうした時代環境を背景とし、日本社会は「量」の拡大を基調とした物質的な豊かさを優先する社会から、「質」の向上を重視し心豊かな生活を志向する社会、すなわち「成熟社会」へと転換しつつあり、このような価値観の変化に、しなやかに対応していく、新しい都市づくりの必要性が増しています。

私たちは、時代の不透明さやさまざまな制約のもとでも、仙台が独自性を発揮しながら国際社会に貢献し、東北の発展を支える都市でありたいと願います。多くの人に居住や経済・文化活動の「場」として選ばれ、住む人や働く人、訪れる人が、いきいきと輝いて活動し、暮らしを充実させていく魅力的な都市として、進化し続ける未来を選択したいと考えます。

その実現に向けた鍵は、市民の持つ可能性と仙台の都市個性の中にあります。

仙台には長い歴史の中で育まれた独自の都市文化や、人々を創造や活動へといざなう美しい自然環境など、新たな発展への力を生み出す土壌が豊かに息づいています。

知的資源を生かし新たな息吹を生み出す学都の力、地域に根差して支え合う健康都市の風土、活力を創り交流を広げる東北の中核都市の力、自然を生かし優れた環境を育む杜の都。

私たちは、こうした仙台の誇るべき市民力と都市個性という資産を生かし、さらに開花させながら、確かな都市経営のもと、仙台の未来に歩みを進めていきます。

## 2 仙台の未来を創る市民力

仙台は百万市民の集合体であり、その市民一人ひとりが、学び交流しながら、新しい価値を生み、支え合い、自らの心の豊かさにつなげていくことが、豊かで成熟した都市を実現するために重要です。

さまざまな主体が都市や地域における課題の解決や魅力の創出に自発的に取り組む「市民力」を発揮していくことは、地方の時代を先導する市民自治の原点でもあります。

## - 市民力を育み広げ多面的に生かす協働のまち・仙台 -

私たちは、仙台の未来を共に創るため市民力を成熟社会にふさわしい力へと育み広げ、都市の豊かさや市民の暮らしの充実に多面的に生かす協働のまち・仙台をめざします。

## (1) さまざまな場面で市民力が発揮され仙台の豊かさを広げます

安心・快適で活力ある地域社会を支え合う市民力、テーマで結びつき、文化・スポ

ーツや環境など多彩な分野で都市の魅力や活力を生み出す市民力、質の高い公共サービスの提供や創造的な協働の拡大などにより公共の領域を広げる市民力。さまざまな場面で市民力が発揮され、仙台の豊かさを広げていきます。

## **(2) 多様で幅広い主体が市民力の厚みを増しすそ野を広げます**

地域に根差し広範な活動を担う地域団体、豊かな知識や経験を生かすNPOやシニア世代、専門的な資源や技術を有する企業や大学、未来に輝く子どもたちや若者世代など、多様で幅広い主体が市民力の厚みを増しすそ野を広げていきます。

## **(3) 市民力を育み広げる環境を整えさらなる発展につなげます**

分かりやすく伝わる情報、多様で効果的な市民参画、活動主体同士の知恵や強みを生かす交流やネットワーク、参加しやすく継続的に市民力を発揮できる仕組み、充実し連携する市民活動の拠点、市民と行政とのさまざまな協働体制など、市民力を育み広げる環境を整え、さらなる市民力の発展へとつないでいきます。

## **3 仙台の都市像**

私たちは、仙台が培ってきた都市の個性を、市民と行政の協働によって発展させた姿として、「誰もが心豊かに暮らし続けることができる都市、『ひとが輝く杜の都・仙台』をめざします。

この理念のもとに、都市個性に対応した4つの都市像を掲げ、市民と行政とが共に実現に取り組み、次の世代へと希望をつないでいきます。

### **未来を育み創造する学びの都**

- 市民力が広がり、未来につなぐ多様な価値や個性を創り続ける輝く学都 -

### **支え合う健やかな共生の都**

- やすらぎに満ち、心豊かな暮らしを支える安心・健康都市 -

### **自然と調和し持続可能な潤いの都**

- 低炭素型の都市システムを持ち、魅力的で暮らしやすい杜の都 -

### **東北を支え広く交流する活力の都**

- 魅力と活力があふれ、東北の自立的な発展を牽引し世界とつながる中枢都市 -

## **4 仙台の未来に責任を持つ都市経営**

仙台の未来に責任を持ち、都市を経営する視点を重視して地方分権時代を先導する市政運営を進めます。

市民の知恵や創意を都市経営に多面的に生かすため、多様な主体と行政の連携・協働を強めるとともに、市民生活の着実な質の向上に向けて地域を重視し、その特性に応じた課題や理念を共有しながら、きめ細かな地域政策を展開します。

健全で持続可能な財政基盤の確立に向けて、効率的な行政運営の徹底、時代の要請

を踏まえた事業の選択と再編、公共施設の経営改革、新たな財源の確保など、市役所の自己変革を加速します。

## 5 総合計画の推進

この基本構想を計画的に推進するため、長期的な計画として「基本計画」を定めるとともに、基本計画に基づく中期的な計画として「実施計画」を定め、基本構想と合わせて、「仙台市総合計画」と位置づけます。

基本計画・実施計画の推進にあたっては、中長期的な財政見通しを視野に入れながら、適切な進捗管理と評価・点検の仕組みにより、その実効性を確保します。

# 基本計画（中間案）の修正骨子（案）

## 第1章 総論

策定目的と計画期間、時代認識と重視すべき視点、計画の位置づけ、構成の計画全体の基本的事項を示します。

### 1 基本計画策定の目的と計画期間

基本計画は、基本構想に基づく長期計画であり、基本構想に定める都市像の実現をめざした重点的な取り組みをはじめ、市政全般にわたる施策を体系的に定め、計画的に推進していくことを目的としています。

基本計画の計画期間は、政策目標を市民と共有して共に取り組む長期計画という観点から、現計画終了翌年度の平成23年度(2011年度)から32年度(2020年度)までの10年間とします。

### 2 計画期間における時代認識と重視すべき視点

#### (1) 計画期間の人口推計

仙台市の夜間人口は、計画期間内にわずかながら減少に転じるものと推計されます。人口構成は、高齢人口が計画期間末に約25%へ上昇する一方、生産年齢人口と年少人口は低下していきます。推計人口は、多少の変動が想定されるものの、人口減少の到来や少子高齢化進展の趨勢はほぼ確実と見込んでいます。

#### (2) 仙台を取り巻く時代環境と課題認識

計画期間は、国・地方を通じた社会経済全体の変革の時代にあたります。東北の中核都市である仙台市には、社会構造改革に向けた取り組みに地域の声を積極的に発信していく役割が期待されるとともに、海外や東北との連携の拡大など、市民力の創意を生かし地方分権時代を先導する経営改革や政策の展開が必要になります。

仙台市においても超高齢時代・人口減少時代が展望されますが、人口の構成や規模は都市のさまざまな面に影響を及ぼします。地域の支え合いや人口構造の地域差拡大への対応、交流人口も含めた人口の増加に資する活力・魅力の創出や暮らしやすさを高める政策推進が重要になります。

地球温暖化対策の強化に向け世界全体で協調した枠組み構築が本格化しています。環境先進都市として都市構造や市民生活・事業活動を省エネルギーで低炭素型に転換していくことがより重要になります。

近い将来の発生が確実視される宮城県沖地震や局地的集中豪雨などの災害、凶悪化、巧妙化する犯罪や交通事故など、市民生活をめぐるリスクが複雑化しており、安全安心への取り組みを市民・行政の協働で進めることが必要です。

暮らしや社会のあり様は、量的な拡大を基調とした社会から、心の豊かさや生活の質の向上を重視する「成熟社会」へと転換してきています。仙台市には、多様な市民力と都市個性を彩る資産の蓄積があり、市民力を広げ新しい知恵や活動を結集しながら、さまざまな観点から成熟社会を支えていくことが極めて重要になります。

### (3) 重視すべき視点

#### 学びの楽しみの創造活動への展開

時代の一大変動期にあって、過去延長型の対応では困難な課題が増大し、新たな観点からの発想や市民力を生かした創意の結集が必要です。仕事や子育て、趣味や娯楽、人との交流など、日々の暮らしの中に多様な「学び」の要素が内在しており、さまざまな場面における学びの楽しみを多様な創造につないでいく視点が極めて重要となります。

#### 地域における多層的な支え合い

少子・高齢化や少人数世帯化が進行する中、中高年の単身者や身近に頼るべき親族のない高齢世帯や子育て世帯、介護や支援が必要な高齢者や障害者等が増加しています。また災害や感染症、犯罪など、市民生活の安全をおびやかす危機が多様化・複雑化しており、誰もが安全に安心して地域で暮らし続けるために、行政・関係団体・企業・NPO・地域等における多層的な支え合いを重視する必要があります。

#### 環境と調和した質の高い暮らしの実現

年々顕著になりつつある世界的な気候変動や資源・エネルギー枯渇の懸念など、地球規模での環境問題が顕在化する中、環境負荷の小さい都市構造や社会経済活動に向けた取り組みを進めることが都市の優位性を高めます。杜の都の風土と環境への高い市民意識を持つ本市が、地球環境時代における都市のあり方を先導し、利便性が高く環境負荷の小さい都市交通体系の構築、機能集約型の市街地形成や地域の社会経済に広く環境への配慮を組み込み、環境と調和し都市の豊かさを享受できる持続可能な都市づくりの推進が重要です。

#### 都市の新しい魅力・活力の創出

多くの都市が人口減少を迎え、グローバル化が加速する時代環境にあって、産業経済や雇用、交流人口や定住人口の拡大をめざす都市間の競争が激しさを増しています。世界・東北との広域的な交流・連携を広げながら、東西都市軸における独自性ある都市整備・産業形成など、仙台の都市個性を伸ばし、人を惹きつける新しい魅力・活力の創出が極めて重要となります。

#### 市民力の拡大と連携

量から質へ、モノから人へという価値観の変化の潮流を踏まえ、仙台市が、人が暮らし、働き、学び、集う、百万市民の集合体であることを再認識しながら、市民の力をまちづくりに生かすことが必要です。本格的な成熟社会を支える都市づくりに向けて、一人ひとりが主体的に知識や経験を学び合い、交流しながら知恵を集めることにより、新しい成果を生み出し、自己実現や心の豊かさに結びつける好循環を生み出せるよう、市民力を広げ、つなげる取り組みが極めて重要となります。

#### 地域特性を重視したきめ細かな対応

地域における人口動向が多様化しており、その課題やニーズは、隣接する地域でも大きく異なっており、今後ますます拡大していくことが見込まれます。地域の実情やニーズを見極めながら、地域課題を地域と共に考え、きめ細かに対応していくことがより重要となります。

#### 市役所の自己変革

財政的な制約が高まる中、健全な財政運営を確保しながら未来に希望をつなぐ政

策を推進していくことが求められます。更新時期を迎える市民利用施設や庁舎、道路・公園や地下埋設物といった膨大で多様な公共施設についても、総合的な整備・維持・管理の経営戦略が必要です。

仙台市役所が未来に確固たる責任を果たすために、組織横断的な取り組みの強化を図るとともに、信頼を高め、創意を集め、そして期待に応えていく、自らの変革への取り組みが極めて重要となります。

### 3 基本計画の位置づけ

本計画期間である平成 23 年度からの 10 年間は、国・地方を通じた本格的な成熟社会への大きな転換期にあたり、こうした時代に先駆的に対応する都市づくりの必要性が増しています。

このような認識のもと、この計画期間を「新たな都市のシステム確立に向けた変革の期間」と位置づけ、仙台の多彩な資産を生かし、さまざまな市民力を結集しながら、新しい時代を牽引する都市の仕組みを早急に構築していきます。

### 4 計画の構成

基本計画の構成における各章の位置づけ・基本構想との関連性を示します。

## 第2章 重点的な取り組み

### 第1 都市像実現を牽引する4つの重点政策

都市像の実現をめざし、成熟社会の質的な豊かさを高める観点から重点的に取り組むべき4つの重点政策を定めます。

#### 1 学びを多彩な活力につなげる都市づくり

価値観や消費の傾向が、量から質へ・モノから時間へと変化する中、知的関心や感性を満たすものに出会え、心に響く体験ができ、豊かな時間を過ごせる都市であることが、市民の暮らしの質を高めるとともに、人を惹きつけ交流を生み出す新たな魅力となります。

仙台には学びを尊重する学都の風土があり、成熟社会にあって、知的資源の集積を生かし、誰もが楽しみながら学び、学びから得た力を、多様な活力や自らの心の豊かさにつなげていくことが重要です。

「未来を育み創造する学びの都」を実現するため、多様な学びの場を創造し、学びにより高められた市民力を多面的に生かす仕組みをつくり、多彩な都市活力につなげます。

#### (1) 楽しみながら学び豊かな時を過ごすことができるミュージアム都市の推進

歴史や食の文化、祭りや文化イベント、街並みや自然風土など、仙台の都市個性の向上をめざし、学びの資源の発掘・創造・蓄積と魅力的な話題としての発信、年間を通じた多様なイベントの展開などに、市民との協働で取り組みます。

本市の多様な学びの素材を、知る楽しみや感動を与える資源として磨き上げ、市民や訪れた人が楽しみながら学ぶことができる、都市全体が学びのミュージアムとなり得る都市をつくります。

学びを楽しむ生涯学習や創造性を育む環境を整え学びの資源を広げます。

広域的な交流を広げるミュージアム都市・仙台の新たな魅力の創造拠点づくりを推進します。

ミュージアム都市の魅力を仙台のブランドとして広く発信します。

学びを仙台の未来を創る活動につなげる人を応援します。

#### (2) 学都・仙台の資源を多面的に生かすまちづくり

学都・仙台としての知的資源の集積を高め、研究成果や人材を産業振興や生涯学習機会の充実に活用するとともに、都市づくりや地域の課題解決、大学等や学生による市民力の発揮など、より多面的に生かすまちづくりを進めます。

大学と企業・地域の連携や市民が学び交流できる機会を広げ、大学のネットワークを活用したコンベンション誘致や世界に向けたシティセールスを促進します。

学校間の連携や、新たな魅力の創出・発信など、学都・仙台の大学等がその活力を高めていくことができるよう支援します。

学生が社会に羽ばたくための力を培うことを積極的に支援し、仙台で学び仙台で力を発揮したいと学生に選ばれるまちづくりを進めます。

#### (3) 地域と共に育む子どもたちの学ぶ力

仙台の未来の担い手となる子どもたちの「生きる力」を育むとともに、子どもたちが学ぶ意義や楽しさを知り、学ぶ喜びを地域で体験できる環境づくりを進めます。地

域ぐるみで子どもたちの学びを支えることが、学びの都の風土をつくり、子どもたちに引き継いでいくことにつながります。

子どもたちの「生きる力」となる確かな学力や豊かな人間性、健やかな体を育む学校教育を充実します。

子どもたちの多様な学びや成長を支え、応援する地域環境づくりを進めます。



## 2 地域で支え合う心豊かな社会づくり

社会の高齢化が急速に進展し、高齢者が住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けることができ、障害があっても自立し自己実現を果たしながら生活できる社会を築くことが重要です。

また、未来を担う子どもたちを安心して生み、育てることができるようにするためには、就労を支えるサービスの拡充に加え、すべての子育て家庭を社会全体で支える取り組みが必要です。子どもたちの遊びや体験の機会や活動場所が不足しており、子どもたちが健やかに成長できるように地域における支援が求められています。

近い将来発生が確実視される宮城県沖地震や各地で頻発する局地的集中豪雨などによる大規模な災害に対しては、個々人や行政による取り組みに加え、地域の共助により取り組むことが必要です。

こうした課題は、一人ひとりの努力や行政の対応だけで解決することは困難であり、身近な地域における支え合いがますます重要になります。

「支え合う健やかな共生の都」を実現するため、行政が多様化するニーズに合わせて安全と安心を守る基盤整備を推進するとともに、地域内で、あるいは地域の間で連携しながら、さまざまな課題に多層的に対応できる仕組みづくりを重点的に進め、誰もが心豊かに暮らすことができる、支え合いの地域社会をつくります。

### (1) いきいき健康社会づくり

市民誰もが自分らしく輝き続けることができるよう生涯を通じた健康づくりに取り組みるようにするとともに、高齢者や障害者が安心して地域で暮らせるための仕組みづくりを進めます。

家庭や地域社会などにおいて、人と人のつながりを生かしながら健康づくりの輪を広げるとともに、重点的に働きかける世代を明確にして効果的な健康づくりを進めます。

医療体制を総合的に充実させるとともに、救急需要の増加に対応できる救急医療体制を強化します。

生きがいづくりや社会参加などを通じた介護予防の機会を地域内に増やし、支え合いながら介護予防を行う仕組みをつくとともに、多様な介護サービスを提供し高齢期の暮らしの安心づくりに取り組みます。

障害者が安心して地域生活を送ることができるまちづくりを進め、自立に向けた就業の支援を強化します。

### (2) 子育て応援社会づくり

すべての人が出産・子育ての希望をかなえることができる環境づくりを推進します。

育児疲れなど育児の負担や不安を軽減するための支援、身近な場所での相談や交流の場の整備などによりすべての子育て家庭を支援するとともに、子どもが遊びや多様な体験を通じて健やかにたくましく成長する機会を創ります。

待機児童ゼロを目指すことはもとより、病児・病後児など、多様なニーズに対応できる柔軟な保育サービスを拡充し、就労と子育ての両立を支援します。

子育て世帯への経済的支援の拡充、児童館整備や子育てふれあいプラザの全区への整備、一時預かりの拡充など、すべての家庭への子育て支援に取り組みます。

幼稚園と保育所の共存を図りながら認可保育所の定員増、幼稚園預かり保育や家庭的保育の拡充等を行い、待機児童ゼロを目指すなど就労と子育ての両立を支援します。

児童クラブや放課後子ども教室の拡充など、放課後の子どもの安全な居場所づくりを進めるとともに、学校支援地域本部の設置の推進など、地域ぐるみの豊かな学校教育環境の創出を図ります。

子育て支援施設を拠点として、子育て支援団体等への活動支援に取り組みます。

### **(3) 安全で安心な生活への総合的な取り組み**

災害に備えた共助の仕組みづくりに向け、市民一人ひとりの防災意識を高め、それを市民全体で共通のものとするための普及啓発を進めます。

新型インフルエンザ等の感染症の大流行等に備え、危機管理の体制を充実させます。犯罪や交通事故、消費者問題、食の安全に関する問題、情報化に伴う諸問題など、生活をおびやかす危機は近年著しく多様化・複雑化しており、市民の安全で安心な市民生活を守るための対策を総合的に推進します。

災害に強い都市構造づくりを進めるとともに地域における共助の仕組みを強化するなど、宮城県沖地震をはじめとする災害への対応を進めます。

医療機関などとのネットワークを強化し、感染症の予防と拡大防止に向けた取り組みを進めます。

犯罪対策、交通安全、消費者保護、食の安全など、市民生活を守る取り組みを強化します。

### 3 環境と調和した持続可能な都市づくり

仙台市民の誇りである「杜の都」は、これまで杜を積極的に育み、先駆的な市民協働による環境保全を進めながら快適な暮らしと大都市の活力を創り出してきた環境と調和した仙台の象徴であり、その先進性を高めていくことが大切です。

また、地球環境時代にあって、世界的な気候変動などの自然的・社会的状況が著しく変化する中で、本市の良好な環境を守り、創り、次代に引き継いでいくためには、消費活動や産業活動の進展にとって、環境対策が制約要因ではなく、推進要因となるような社会経済システムへの転換が必要になります。

「自然と調和し持続可能な潤いの都」を実現するため、暮らしの質や東北を先導する都市の経済活力を高め国内外との交流を広げる、低炭素型でエネルギー効率の高い機能集約型の都市構造や総合交通ネットワークを整えながら、恵み豊かな自然環境を守り、緑と水のネットワークを形成する、環境と調和する持続可能な都市づくりを進めます。

#### (1) 低炭素都市づくりの推進

市民や事業者との協働による低炭素都市づくりを推進するための制度の整備とともに、都市基盤・都市構造や市民生活・経済活動の中に低炭素や資源循環の仕組みが備わった都市づくりを進めます。

#### (2) 環境と調和した杜の都の都市個性を高める土地利用の推進

杜の都・仙台の地勢を生かした土地利用区分のもとに、自然環境と都市機能が調和した土地利用の推進を図ります。

自然環境保全ゾーン：「潤いと安らぎの空間」として、豊かな生態系と自然環境を守り、本市の自然特性を将来にわたって保持します。

集落・里山・田園ゾーン：「恵みと豊かさの空間」として、農林業振興や地域活性化により集落の生活環境の維持改善を図り、周辺環境と調和しない土地利用の転換は抑制し、森林や里山・田園などの豊かな環境を保全します。

市街地ゾーン：「便利で快適な暮らしの空間」として、地域特性に応じた土地利用を進めながら、都市の緑や景観を守り育み、緑豊かで美しい市街地を形成するとともに、基本的に市街地の拡大は抑制します。

#### (3) 機能集約と地域再生を中心とした持続的な発展を支える都市構造の形成

土地利用と交通政策の一体的推進と暮らしに関連する施策の連携等により、新しい都市活力や魅力を生み出す拠点や都市軸の高度化等による都市機能の集約を図るとともに、郊外区域において地域の特性や課題に応じた生活環境の改善を進める「機能集約・地域再生型市街地」の形成を図ります。

東北・仙台都市圏の交流拠点として活力を牽引する都心の機能を拡充強化します。

泉中央地区と長町地区を「広域拠点」と位置づけ、都市圏の活動を支える生活拠点にふさわしい魅力的で個性ある都市機能の充実強化を進めます。

青葉山周辺における「国際学術文化交流拠点」や、仙台港周辺における「国際経済流通拠点」に、それぞれの拠点にふさわしい都市機能の誘導を図ります。

鉄道沿線と周辺地域においては、交通利便性や地域の拠点機能を生かして、生活環境の充実や居住機能の一層の集積を図ります。

特に、地下鉄沿線区域を十文字型の「都市軸」と位置づけ、都心と広域拠点等を

結ぶ地下鉄南北線沿線の「南北都市軸」においては、都心や広域拠点との連携を強化しながら、都市機能の再生や強化を図ります。

地下鉄東西線沿線の「東西都市軸」においては、西部の学術研究機能と、中心部の商業・業務機能、東部の産業機能など多様な都市機能の集積と連携を図り、本市の持続的な成長を駆動させる新たな創造と交流の基軸形成を図ります。

郊外区域においては、暮らしを支える都市機能の維持改善や、生活に必要な地域交通の確保など、良好な生活環境づくりを進めます。

特に、地域活動や生活利便性の低下が懸念される地域については、土地利用、住宅、交通、福祉などさまざまな分野の連携のもと、地域特性を生かした活力ある地域づくりによる地域再生を進めます。

#### **(4) 誰もが利用しやすく都市活力を高める交通基盤づくり**

過度な自動車利用を抑制し、誰もが移動しやすく、高齢者や障害者などにもやさしい公共交通を中心とした交通体系の形成と、世界や東北との交流拠点機能の強化を通じて、人流・物流両面での総合交通体系の形成をめざし、維持コストや環境負荷の低減、地域生活の安心や都市の成長などを重視しながら、本市の交通基盤づくりを進めます。

鉄道中心にバスとのネットワークを強化する低炭素型の公共交通網を整えます。

地下鉄東西線の整備に合わせて、仙台駅周辺の交通機能を再構築し都心の交通環境を改善します。

市民の暮らしや都市の活力を支える道路ネットワークについて、優先順位を明確にしながら、計画的な整備を推進します。

地域の暮らしを支える交通手段として、路線バスの維持に努めるとともに、市民との協働による地域特性に応じた生活交通の確保に向けた取り組みを推進します。

広域的交通網の整備進展を生かし、東北のネットワークの中心として主要拠点間のひと・物・情報の交流の活性化に戦略的に取り組みます。

国際経済交流拠点の仙台国際貿易港や仙台空港の機能強化や利用促進を図ります。

#### 4 人を惹きつけ躍動する仙台の魅力と活力づくり

本市は東北の中核都市として、東北地方全体との広域連携により東北の発展を支えるさらなる魅力づくりとさまざまな情報発信等に大きな役割を担うことが求められます。

地下鉄東西線は、大学や研究機関と国際センター周辺のコンベンション機能、事業所等が集積する都心部、新たに産業フロンティアとして複合機能化が進む卸町・六丁目地区などを結び、研究開発型企业など高付加価値型の産業の集積につながることが期待されます。また、歴史の香り高い青葉山や広瀬川、東北随一の賑わいをみせる中心部商店街、地下鉄南北線やＪＲ線と有機的に連動して、サッカー・野球・バスケットの３つのプロスポーツの拠点を結び、広域的な集客力に富む新たな都市型観光を創出するなど、都市にさらなる賑わいと活力をもたらす都市軸としての役割が展望されます。

「東北を支え広く交流する活力の都」を実現するため、地下鉄東西線により新たに生まれる都市軸を最大限活用し、産業・学術・歴史文化・スポーツなどの都市の資源や、仙台の持つ人材力を複合的に結び付け、さまざまな戦略的プロジェクトを生み出しながら、東北の持続的な成長を支える仙台の都市全体の魅力・活力づくりに取り組みます。

##### (1) 産業の革新と競争力の強化

本市の経済を支える中小企業に対して、経営革新や技術力向上を促進し経営基盤の充実・強化を図るとともに、本市の顔となる中心部商店街は、地下鉄東西線の開業による沿線の資源とのアクセス向上を生かし、さらなる魅力づくりと賑わいづくりに取り組みます。また農業者や中小企業者等の有機的な連携により、付加価値の高い商品を生み出すことができるよう支援します。

民間人材の活用などにより中小企業の経営革新や技術力向上を支援します。

情報発信やイベントとの連携強化など商店街の主体的な取り組みを支援し、魅力づくり・賑わいづくりに取り組みます。

産業間連携などにより資源・ノウハウを有効活用し、付加価値の高い商品を生み出すことができるよう、農業の活性化を支援します。

##### (2) 東北の交流人口の拡大への戦略的取り組み

東北全体の魅力を向上し、集客力あるプロスポーツとの連携強化や海外向けプロモーションの展開などにより、圏域全体の集客力を高めるとともに、本市の魅力を創造し、発信するシンボルゾーンを形成し、観光やスポーツ、文化芸術など、多様な分野を融合させながら、ミュージアム都市としての魅力向上と発信に取り組みます。

観光スポットの魅力を拡大し、海外向けプロモーションの展開など世界に向け、東北全体の情報発信に取り組みます。

地下鉄東西線や南北線沿線に新たな魅力を創造し発信するシンボルゾーンを形成し、スポーツや芸術文化などの多彩な都市型観光ルートづくりなどを戦略的に推進します。

本市の特徴あるイベントを通年で楽しめる仕組みなど、多様な分野が融合した新たな観光の資源を創造し発信します。

##### (3) 未来への活力を創る産業の育成・誘致

本市の人材力を生かし、本市に強みのあるクリエイティブ産業や健康福祉、環境などの成長産業、研究開発型産業などを育成・誘致することにより、本市の地域経済の自立的・長期的な発展と雇用の安定的な確保をめざします。

創造的人材を獲得しクリエイティブ産業などを活性化させます。

研究開発型産業、業務支援型の産業などの都市型産業を誘致・育成し雇用を確保していきます。

健康福祉、環境など次世代の成長産業により、活力を創り出します。

#### **(4) 都市軸形成・活用の重点地区**

東西線により生まれる新たな都市軸の中に、戦略的な重点地区を定め、地域特性に合わせた整備と機能の集積、活性化を図ります。

青葉山・国際センター地区に仙台を象徴する国際学术交流ゾーンとしての機能の充実を図ります。

都心部の賑わい・活力創出ゾーンとしての集客力の強化を図ります。

卸町・六丁目・荒井地区に創造産業育成・農商工連携など産業フロンティアとしての機能の創出を図ります。

## 第2 都市像の実現に向けた4つの経営方針

都市像の実現に向けて、未来に責任を持つ確かな都市経営の仕組みをつくるために、重点的に取り組むべき4つの経営方針を定めます。

### 1 未来を創る市民力の拡大と新しい市民協働の推進

地域や社会のために市民力を発揮することが都市の活力を生み、コミュニティのきずなを再生させ、一人ひとりの自己実現や生きがいにもつながります。誰もがいきいきと輝くことができる社会を実現するため、市民力を発揮しやすい環境を整え、多様な主体による市民力を充実させ、広げていくことが求められます。

成熟社会における本市の持続的な発展を支えるためには、多様な主体がそれぞれの得意分野を生かし、市民と行政の協働によるまちづくりを進める必要があります。

未来を創る市民力を広げ、一人ひとりが輝く杜の都の実現をめざし、多様な市民力が連携しながら行政と協働する仕組みを推進します。

#### (1) 市民力が発揮される参加と協働の環境づくり

市政に関する情報発信と市民参画の充実

- ・ 積極的な情報発信の推進と情報公開制度の拡充
  - ・ 多様な市民参画の仕組みづくりと政策形成過程への市民参画の推進
- 参加と協働を促進する市役所変革の促進
- ・ 市民と共に考え行動する協働の組織風土づくり
  - ・ 職員の市民活動・地域活動への参加の促進

#### (2) 市民力の充実・拡大に向けた取り組みの推進

市民力のすそ野を広げる取り組みの推進

- ・ 主体的な活動を促進する環境整備の充実
- ・ 多様な市民力の交流と連携を支える仕組みづくり
- ・ コーディネート機能の充実強化

次代を担う若い世代の市民力の育成

- ・ 子どもたちが地域の市民力に接し、学ぶ機会の充実
  - ・ 若者が市民力を発揮できる機会の充実と多様な支援
- より多彩な市民力の拡大

- ・ 企業が市民力を発揮し社会的責任を拡充させる取り組みの促進
- ・ 大学等学術研究機関による創造的な地域貢献活動の促進
- ・ シニア世代の能力と経験を地域社会に生かす取り組みの推進

#### (3) 市民力が発揮される新たな公共の推進

市民力の活動領域拡大への取り組みの促進

- ・ 市民協働事業の拡充
- ・ 協働事業提案制度による取り組みの拡大促進
- ・ 民間の力のさらなる活用推進

新たな公共の取り組みの促進

- ・ 新しい時代の協働を支える仕組みづくり
- ・ ソーシャルビジネス・コミュニティビジネスの促進
- ・ 新たな公共を支える資金調達の仕組みづくり

## 2 地域特性に応じたきめ細かな地域づくりの推進

高齢化や人口減少が進む地域がある一方、人口が増加している地域もあり、地域活動の担い手の状況や地域団体間の連携の度合い、活動の頻度や種類なども地域により異なるなど、地域ごとの状況や課題は多様化・複雑化しており、地域特性に応じた市民協働による地域づくりの支援拡充が求められます。

地域課題の多様化・複雑化に伴い、区役所と本庁の連携や個々の地域の実情把握を強化する必要性が高まりつつあり、地域行政の第一線としての区役所の地域支援拠点機能の強化や、市役所の組織全体が地域を重視する組織横断的な対応など、地域づくりをきめ細かに支援するための体制の強化が必要です。

市民の暮らしの基盤をより良いものにするために、個々の特性に応じた課題や理念の共有のもと、安心・快適で活力に満ちた地域社会をめざし、市民協働による地域づくりを進めます。

### (1) 市民協働による地域づくりの支援拡充

地域の交流連携の促進

- ・ 地域における顔の見える関係づくりの支援拡充
- ・ 地域の課題や地域づくりの理念を共有する機会づくりの促進

市民協働による主体的な地域活動の活性化

- ・ 地域活動拠点の充実
- ・ 町内会活動の活性化
- ・ 地域の魅力を高め共に支え合う地域活動の促進
- ・ 世代を超えて支え合う地域づくりの推進
- ・ 地域の担い手による創造的な協働活動の促進

地域活動の担い手の育成・拡大

- ・ 地域活動の担い手育成の取り組み
- ・ 多様な人材の地域活動への参画促進
- ・ 若い地域の力による地域活動の促進

### (2) 地域づくりをきめ細かに支援するための体制強化

地域との協働・連携を広げる区役所の機能強化

- ・ 区役所の地域支援拠点機能の強化
- ・ 区役所と市民センターが一体となった地域支援体制の構築
- ・ 地域連携担当職員の配置

地域を重視する組織横断的な市政推進

- ・ 組織横断的な対応による地域との対話・交流機会の充実
- ・ 小学校区ごとの地域情報の整備充実と地域との共有
- ・ 本庁における地域の視点や区役所との連携の強化
- ・ 区を超えて地域特性が類似する地域課題への組織横断的な支援の充実
- ・ 地域における年齢層の推移を踏まえた子どもや高齢者等の総合的な施策推進



### 3 地方の時代を先導する市役所の自己変革

時代の転換期にあって、持続可能な都市の発展を支え、未来に責任を持つ都市経営を実現するためには、本市の資産である多様な主体のさまざまな活動を発展させるとともに、人材の育成や職員の資質向上、意識改革、組織改革など、さまざまな面から市役所の自己変革を進めることが求められます。

財政制約の強まるなか、歳入の確保に努め、経費削減や事業の重点化などにより、効率的な行政運営の実現をめざします。

厳しい時代環境を乗り越え仙台の未来に責任を持つ、健全で持続可能な財政基盤の確立に向けて、市民や東北の期待に応える主体的・創造的な都市経営力を発揮しながら、地方分権時代を先導する市役所の自己変革を加速します。

#### (1) 総合計画の推進と両立する持続可能な財政基盤の確立

健全性を高める財政運営に向けた基本的な取り組み

- ・ 収支均衡型の健全な財政運営をめざす取り組みの総合的・計画的な推進
- ・ 将来に過大な負担を残さない市債残高の着実な縮減
- ・ 大都市にふさわしい税財政制度の確立に向けた取り組みの牽引

歳出削減・歳入向上につながる行財政改革の徹底

- ・ 効率的な行政運営体制の構築による人件費・事務経費の圧縮
- ・ 時代の要請を踏まえた事業見直しと外郭団体・公営企業の経営改革
- ・ 歳入増に向けた収納対策等の取り組みの推進
- ・ 特定の受益者対象サービスの受益と負担の適正化

税源の涵養の視点を重視した取り組みの推進

- ・ 戦略的な企業誘致や未利用地の有効活用の推進
- ・ 地域産業の自立性・競争性の向上
- ・ 公共サービス分野への民間活用の総合的推進

#### (2) 創造的な都市経営力の発揮

創造的・機動的な職員育成と組織風土づくり

- ・ 質の高いサービス提供を支える多面的・意欲的な職員の積極的な育成
- ・ 市民協働の拡大や現場感覚に根ざした職員活動の拡大
- ・ 風通しよく知恵を結集させていく組織風土の醸成
- ・ 組織の権限機能見直しや横断的対応など行政運営の効率化・柔軟化

市民の知恵や創意を生かした都市経営

- ・ 市民の知恵の結集による政策の立案・推進
- ・ 市民力が担う新たな公共分野の拡大

東北や都市圏の力を集め発展を牽引する都市経営

- ・ 東北全体の持続的な発展に向けた人的・物的な交流と機能連携の促進
- ・ 近隣自治体との多様な分野における連携強化

#### 4 公共施設の経営改革

高度成長期や政令指定都市移行時期に整備した、庁舎や市民利用施設、廃棄物処理施設、公園、道路、地下鉄、上下水道など、幅広い分野にわたる数多くの施設が更新の時期を迎える中、公共施設の全体的な保有量や老朽度合い等を総合的に集約整理するとともに、中長期的な視点に立った総合的な対応が求められます。

また、市民ニーズの多様化や財政制約の高まりの中で、現有施設を最大限活用した新たなニーズへの対応や整備運営における民間活力活用の一層の促進、市民が担い手となる分野の拡大など、安定した公共施設運営に向けた取り組みが必要になっています。

公共施設に関する総合的なマネジメントの仕組みを構築するとともに、その確実な推進のための庁内横断的な体制を整備し、市民ニーズに対応した安心して利用できる施設の持続的な提供に向け、公共施設の経営改革を進めます。

##### (1) 整備拡張から現有施設保全・活用重視への転換

時代に対応した公共施設の質・量両面の適正化

総合的な管理・保全の強化

- ・ 公共施設整備状況の集約整理と全体像の「見える化」推進
- ・ 公共施設の種類ごとの維持管理基準の明確化
- ・ ライフサイクルコスト適正化の対応強化

総合的な現有施設活用の重視

- ・ 新規整備や更新の厳選・重点化
- ・ 公共施設の更新・改修等の費用の縮減・平準化の推進
- ・ 未利用・低利用地等の有効活用

##### (2) 公共施設運営における新しい公共や担い手の拡大などの領域・役割の再構築

民間活力の活用推進

- ・ 新たな手法の導入をはじめとした民間手法活用のさらなる推進
- ・ 公共施設を活用した歳入増の推進

地域協働による地域施設マネジメントの推進

市民利用施設の持続的な運営に向けた費用負担のあり方の見直し

##### (3) 公共施設の総合的なマネジメント推進のための庁内体制整備

### 第3章 分野別計画

基本構想の都市像の実現に向けて取り組むべき仙台市の全施策分野を、都市像との関連に着目して2つに分類し体系化するとともに、施策体系ごとに動向と課題・基本的方向・基本的施策を示します。

体系の第1は、市民に身近な暮らしや地域に関連する「学びの都・共生のとの実現を目指す分野」、第2は、都市構造・環境や都市全体の魅力・活力づくりに関連した「潤いの都・活力の都を目指す分野」とします。

#### 第1 学びの都・共生の都の実現をめざして

##### 1 学びや楽しみを多様な創造につなげる都市づくり

- (1) 未来を育み創造する学びの都づくり
- (2) 子どもたちが自ら学び成長する教育環境づくり
- (3) 個性を育む豊かな都市文化づくり

##### 2 健康で安全に安心して暮らすことができるまちづくり

- (1) 心身ともに健康な暮らしづくり
- (2) 災害に強い都市づくり
- (3) 安全・安心な暮らしづくり

##### 3 共に生き自立できる社会づくり

- (1) 誰もが共に生き自己実現できる環境づくり
- (2) 安心して子どもを生み育てることができるまちづくり
- (3) 高齢者が元気で安心して暮らすことができるまちづくり
- (4) 障害者が自立した地域生活を送ることができるまちづくり

#### 第2 潤いの都・活力の都の実現をめざして

##### 1 自然と調和し持続可能な環境都市づくり

- (1) 低炭素型・資源循環型の都市づくり
- (2) 自然と共生する都市づくり

##### 2 暮らしやすく活力を創造する都市構造づくり

- (1) 機能集約型・地域再生型の市街地づくり
- (2) 公共交通中心の利便性の高い交通体系づくり

##### 3 成熟社会を支える魅力・活力づくり

- (1) 都市の個性を伸ばす仙台の魅力づくり
- (2) 暮らしや雇用を支える地域経済の活力づくり

## 第4章 区別計画

### 1 区別計画の目的

区別計画は、区役所と市民が将来ビジョンを共有し、協働しながら、安心・快適で活力のある地域社会づくりを進めるために策定します。

### 2 区別計画の構成

#### 区の将来ビジョン

基本構想の都市像の実現に向けて、区の特性・動向の認識のもとに、計画期間である10年後を想定した、めざすまちの姿を示すとともに、市民と共に歩むまちづくりの方向を示します。

#### 区の主な施策の基本方向

第2章「重点的な取り組み」や第3章「分野別計画」との整合を図りつつ、区の将来ビジョン実現のために、区内で取り組む主な施策の基本方向を示します。

#### 圏域ごとの主な施策の基本方向

日常生活圏としての一体性、土地利用や都市機能等の地域特性、将来的な課題や発展方向などが類似する圏域ごとに、特性・動向の認識のもと、主な施策の基本方向を示します。

#### （区ごとの圏域一覧）

青 葉 区： 都心地域、 都心周辺地域、 丘陵住宅地域、 愛子および周辺地域、  
西部山岳丘陵地域

宮城野区： 都心および周辺地域、 丘陵住宅地域、 北部住宅・田園地域、 東部住宅・産業・田園地域

若 林 区： 都心および周辺地域、 郊外住宅地域、 産業・交流地域、 田園・海浜地域

太 白 区： 南部拠点地域、 名取川右岸地域、 丘陵住宅地域、 太白山周辺地域、  
秋保地域

泉 区： 北部拠点地域、 泉ヶ岳および西部田園地域、 丘陵住宅地域、 北部産業地域

#### 区の地域区分図

土地利用や交通・都市機能等の都市空間形成の方向、圏域の区分などを図示します。

## 第5章 総合計画の推進

総合計画を推進するため、実施計画と予算による施策の着実な推進の方向性や、総合計画の実効性の確保に向けた取り組みの方向性を示します。

### 1 総合的な推進

#### (1) 実施計画の策定・推進

基本構想や基本計画の理念を着実に実現していくため、社会経済情勢の変化や市民ニーズの動向を的確に把握し、財政との整合を図りながら、3年の計画期間を基本とする実施計画を定め、計画的に施策を推進します。

#### (2) 実施計画に基づく予算の重点化と柔軟な展開

各年度の予算においては、実施計画に基づき、選択と集中による重点的な予算配分に努め、種々の状況変化に柔軟に対応した施策を展開します。

### 2 総合計画の実効性を確保する仕組み

#### (1) 総合計画の目標設定

市政全般の施策を体系的に定める基本計画において、定性的な政策目標を掲げ、実施計画において、当該政策目標ごとに成果指標を設定します。

#### (2) 総合計画推進に関する市民意識調査の実施

基本計画における政策目標に関する市民の評価やニーズの変化を把握するため、市民意識調査を各年度に実施します。

#### (3) 市民協働による評価・点検

実施計画に定める成果指標や市民意識調査の結果を踏まえ、幅広い市民や有識者・関係団体などが参画できる市民協働の手法を取り入れて、各年度、基本計画に定める政策目標について適切な評価・点検を行い、その結果を分かりやすい形で公表します。

#### (4) 評価・点検の結果を踏まえた適切な対応

基本計画に定める政策目標の評価・点検の結果を踏まえ、次年度の予算への適切な反映に努め、政策目標の実現に向けた取り組みを着実に推進することにより、総合計画の実効性の確保に努めます。

実施計画の成果指標については、各種の制度変更や社会経済情勢の変化も踏まえながら、実施計画期間の満了時において、基本計画の政策目標の指標としてよりふさわしいものになるよう見直しを行います。